



昭和大学歯学部だより

2023年2・3月号

通算第221号

令和4年度 卒業式・学位記伝達式が開催されました

＜歯学部長 榎 宏太郎＞



令和4年度の昭和大学卒業式と学位記伝達式が、3月15日にパシフィコ横浜において執り行われ、医学部120名、歯学部89名、薬学部166名、保健医療学部155名が御卒業されました。春のような日差しにも恵まれ、厳粛な中にも慶びに満ちた式となりました。卒業式では、飯島由美さんが歯学部総代として久光学長より学位記を授与されました。久光学長の告示では、医療人として様々な場面での『気付き』や豊かな感性を大切に生きようというお話を賜りました。そして、小口理事長から、コロナ禍を乗り越えた学生諸君への賛辞とともに昭和大学の卒業生として卒後も社会から活躍を期待されているという励ましのご祝辞を賜りました。

続く、学位記伝達式は、学部ごとに隣接のアネックスホールに移り、和やかな雰囲気の中で、各人への学位記授与と特別表彰、記念品贈呈などが行われました。卒業生の皆様が、昭和大学の思い出とともに、素晴らしい人生を歩まれるよう祈念致しております。

令和4年度 卒業式・学位記伝達式での表彰者について

＜歯学部学生部長 野中 直子＞

卒業式・学位記伝達式にて以下の学生が表彰されました。受賞された皆さん、おめでとうございます。今後のご活躍をお祈りしております。

卒業式	上條賞	飯島由美		
	同窓会賞	木内 彩紀, 斎藤大輔, 渡部玖充		
	上條旗ヶ岡賞	四宮寛大		
学位記伝達式	教育委員長賞	河合良紀	学生部長賞	荒船萌里
	ストロマンアワード	野川三奈	モリタ補綴学賞	岡田真帆
	デンツプライシロナ スチューデントアワード	渡辺理沙	日本小児歯科学会 学部学生優秀賞	片山美央
	国際歯科学士会 ICDアワード	四宮寛大		

- P.1 【令和4年度 卒業式・学位記伝達式が開催されました】 歯学部長 榎 宏太郎 教授
- 【令和4年度 卒業式・学位記伝達式での表彰者について】 歯学部学生部長 野中 直子 教授
- P.2 【学士会が開催されました】 学士会委員 山本 松男 教授
- 【定年退職に際して】 歯科放射線医学部門 荒木 和之 教授
- 【定年退職に際して】 歯科麻酔科学部門 飯島 毅彦 教授
- 【定年退職に際して】 口腔生理学講座 井上 富雄 教授
- P.3 【定年退職に際して】 歯学教育学講座 片岡 竜太 教授
- 【定年退職に際して】 高齢者歯科学講座 佐藤 裕二 教授
- 【定年退職に際して】 歯学部長・歯科矯正学講座 榎 宏太郎 教授
- P.4 【追悼 上條竜太郎教授を偲んで】 歯科薬理学講座 高見 正道 教授
- 【CBTが実施されました】 CBT実施責任者 鈴木 規元 教授
- 【行事予定】 広報委員長 野中 直子 教授 【編集後記】 歯科理工学部門 堀田 康弘 准教授

学士会が開催されました 一定年退職記念講演会 ― 学士会委員 山本 松男 >

昭和大学学士会特別講演会として、令和5年3月4日(土)および3月25日(土)の二日間に歯科病院6階臨床講堂において、それぞれ3名の先生方にこれまでの活動を振り返りつつ歯学・歯科医療についての熱い想いをこめたご講演を賜りました。くしくも6名のご退職の時期が重なりましたが、多方面から大変深い講演を一度に拝聴し、あたかも歯科医学会総会のように幅広く、そして私どもの共通の思い出とともにお聞かせいただき、深く心に染み渡る貴重な機会になりました。

定年退職に際して

< 歯科放射線医学部門 荒木 和之 >



1996年4月に昭和大学に赴任し、2017年8月からは歯科放射線医学部門の教授を拝命しました。27年間、昭和大学で働くことができたのは、先輩方や同僚の皆様ののおかげです。研究や教育、さらには日々の診療業務においてたくさんのお力添えいただいたことに深く感謝いたします。この間、教育ではPBLやアクティブラーニングの導入、研究分野ではAIによる支援診断の進展と大きく様変わりしました。これから歯科放射線医学部門は新しい教授を迎え、新たな診断学の地平をめざして邁進されることと思います。私も微力ながらもう少しだけお手伝いして行く予定です。これからも皆様のご支援をお願いいたします。末筆になりましたが、昭和大学歯学部がさらに発展することを祈念しております。

定年退職に際して

< 歯科麻酔科学部門 飯島 毅彦 >



2011年4月に昭和大学に赴任しました。当初は教授職の仕事に戸惑いながらも医局員がとてもよく助けてくれたので何とか仕事の流れに乗ることができました。歯科麻酔科は臨床の講座ですから、まずは麻酔業務の充実と安全性の確保を第一に仕事を進めてきました。幸い、歯科病院で手術室を利用する診療科も協力的な方が多く、その結果、症例数も伸び、全国で最も多くの歯科麻酔管理、全身麻酔を行うようになりました。一方、研究では自らの独自の研究室がありませんので、基礎系講座の先生方をお願いすることになりました。本学の基礎系の研究室の皆様、また、医学部、薬学部の基礎系の講座のご協力をいただきました。おかげさまで14名の大学院生を受け入れ、学位授与まで到達することができました。ご協力いただいた先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。

定年退職に際して

< 口腔生理学講座 井上 富雄 >



令和5年3月末をもって定年退職いたします。23年前の2000年4月に大阪大学歯学部から昭和大学に赴任した当時、歯学部の先生方は教育改革に熱心に取り組んでおられました。2004年には講義中心の教育形態から問題解決型の少人数教育、統合型講義、学外の医療機関での実習を導入し、チーム医療を実践できる医療人を育成する教育方針に大きく転換しました。教員の負担は増えましたが、新カリキュラムを形にしようと一致団結して努力するチームワークに驚きました。その後すぐに「コンビニより多い歯科医院」などと歯科に逆風が吹き荒れました。しかし歯学部は、チーム医療教育と歯科医師国家試験の高い合格率に支えられ、この難局を乗り切ることができました。この間、他大学で例を見ない優れたチームワークが大きな成果を生むことを学び、貴重な経験になりました。このチームワークの良さで昭和大学がますます発展していけるよう願っております。

定年退職に際して

＜歯学教育学講座 片岡 竜太＞



1979年に昭和大学歯学部に入學して以来、学部学生、大学院生、教員としてお世話になり、無事に定年を迎えることができました。チーム医療教育の導入にあたり、歯学教育でも医科疾患や薬剤の知識などを補う必要性を痛感し、宮崎 隆副学長のもとで、歯学教育カリキュラム改革に取り組みました。大学間連携共同教育推進事業「ITを活用した超高齢化社会の到来に対応できる歯科医師の養成」の幹事校として、「歯科医学教育」に「臨床実習前の準備教育」を加えた教育システムを構築しました。教員が一丸となった取組が、文部科学省の事後評価で最高のS評価をいただき、非常に大きな喜びとなりました。医系総合大学の歯学部という環境の中で、チーム医療で活躍する歯科医師の養成を目指して邁進してまいりました。ご指導をいただきました諸先生方、支えていただきました皆様に心より感謝を申し上げます。最後に昭和大学の今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

定年退職に際して

—恵まれた環境に感謝いたします— <高齢者歯科学講座 佐藤 裕二>



21年前に広島大学からの赴任時に、時代の流れに合わせて、総義歯学教室から高齢者歯科学教室に改名されました。あたらしい教育、診療、研究の立ち上げに苦労しましたが、温かい先輩方や、素晴らしい教室員にめぐまれ、順調に教室は成長できました。また、若輩にもかかわらず、広報委員長、教育委員長、研究科運営委員長、副院長などを拝命し、勉強させていただきました。研究の大部分を当講座内で指導し、61名が学位取得をさせていただきました。11冊の筆頭の著書出版、マスコミへの出演、学会活動も楽しく、いくつかの学会で役員をさせていただき、大きな学術大会を主催できました。これもひとえに、教育・臨床・研究・対外活動において、昭和大学歯学部という恵まれた環境にあったおかげと深く感謝いたします。ありがとうございます。講座名は口腔機能管理学部門に変わりますが、歯学部のますますの発展を心より願っています。

定年退職に際して

—皆様への御礼— <歯学部長・歯科矯正学講座 榎 宏太郎>



時間の過ぎるのは速く、つい先日に入學したかと思ったら、もう65歳を迎えました。まさに瞬きの間ほどの感覚です。辛いことは長く感じ、楽しいことは短く感じる、という経験からすると、昭和大学での45年間は楽しいことばかりでした。常にワクワクして過ごせたように思います。とくに、矯正科に入局してからは、日立とCBCTを開発し、早稲田大と患者ロボットを作り、米国からアライナー矯正を紹介し、SEIKO社とともに口腔内センサーを創出し、東工大とバイオメカニクスを研究し、様々な挑戦を続けられました。そして、歯科医学の進歩や医療の変遷、そして学生さんたちの輝きを目の当たりにした、とても幸せな時間でした。これらは全て、多くの素晴らしい人々との出会いや巡り合わせのおかげであり、昭和大学の懐の深さでこそ可能になったと感じております。今までに出会った皆様に、心から感謝の気持ちをお伝えして、退職のご挨拶とさせていただきます。

追悼 上條竜太郎教授を偲んで

< 歯科薬理学講座 高見 正道 >



昨年末、上條竜太郎先生がご逝去され、部下として10年以上お世話になった私は、3か月経った今も深い悲しみを禁じ得ません。上條先生は生前、「『人は財産』という言葉がある。」と私に話されたことがあります。「組織において人を活かすも殺すも指導者の責任であり、部下や学生の能力を最大限に導くことが私たちの使命である。それには人との繋がりを大切にするとともに、組織全体を俯瞰する眼が必要。」とのことでした。その言葉に違わず、上條先生の研究室には多くの研究者や学生が訪れ、常に活気に溢れていました。そして歯学部の「D6チューター」や「科研費申請書作成支援システム」など多くの新企画を立案され、歯学部のレベルを格段に向上させました。また、文科省設置分科会や日本歯科医師会をはじめ多くの学術団体で要職を務め、歯科界の発展を牽引されました。先日、上條先生が20年以上にわたって仕事をされてきた口腔生化学講座で「上條竜太郎先生を偲ぶ会」が営まれ、2日間で学内外より400名近くの方が献花に訪れられたそうです。それを聞いた私は上條先生の「人は財産」という言葉を思い出し、あらためて尊敬いたしました。上條先生、今まで本当にありがとうございました。先生のご意志は私たちが引き継ぎます。どうぞこれからも暖かい、いつもの先生の笑顔で見守ってください。合掌。

CBTが実施されました

< CBT実施責任者 鈴木 規元 >

2月1日(水)に令和4年度共用試験CBTが実施されました。本年度は新型コロナウイルス感染症による欠席者もなく、4年生97名全員が無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室にて、榎歯学部長と船津教育委員長の激励を受けたのち、朝9時から午後5時過ぎまで全320問の問題に取り組みました。学生は終始緊張の面持ちでしたが、大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。共用試験実施評価機構からは明海大学の天野修教授、岡山大学の大原直也教授が機構派遣監督者として来校され、実施状況を視察されました。試験終了後の反省会では、運営状況、感染症対策、学生の受験態度など大変良好とのコメントをいただきました。試験監督をはじめ、CBT実施にあたりご協力いただいた先生方、学務課の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

行事予定

< 広報委員長 野中 直子 >

4月 1日(土) 大学院春季入学式

4月24日(月) D5白衣授与式

4月13日(木) 昭和大学入学式・入寮式

編集後記

< 歯科理工学部門 堀田 康弘 >

今年度は6名の教授が退職され、次年度からは65分授業への切り替えなど、歯学部にとって大きな変革の時期となりました。お忙しい中、ご寄稿くださいました先生方には感謝申し上げます。

昭和大学 歯学部だより 通算221号 2023年3月発行

発行責任者：歯学部長 榎 宏太郎 編集責任者：広報委員会委員長 野中 直子

2・3月号編集委員：堀田 康弘（広報委員会）

〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL：03-3784-8000

ホームページ：https://www.showa-u.ac.jp